

忍者の研究

2019/9/17



夏休みが終わる。廊下に自由研究が展示、掲示されている。その中で、私の目をとめた研究。

それは二年生、男の子。研究テーマは《忍者の研究》。レポートである。低学年にしては分厚い。忍者のいろいろなことを調べているのだが、私が一番気に入ったところは…

「忍者は走るとき、おへそに梅干しをはる。そうすると、速く走れる。」

写真があつた。実際に、自分のおへそに梅干しははってある…そういう写真。それだけではない。実験をしている。梅干しをはった時とそうでない時のタイムを比較している。

三回走る。一回につき、梅干しあり、なしの二度走なので、計六回走ったことになる。その結果が面白い。一、二回とも、梅干しなしのほうがタイムがいい。梅干し効果なし…という結果。そして、三度目は、梅干しありがタイム良し。梅干し効果あり。

私は笑った。楽しい笑い。愉快。

梅干しを実際にはったのがとてもいい。その写真を掲載したのがいい。比較実験したのがいい。そして、梅干し効果がなかったことが実証されたのがとてもいい。笑ってしまう。楽しい。

そして、三回目は梅干しありが速かった。

その子はこう感じた。「変だ。梅干しありが速いはず。何とかしなければ、…と、三度目走は《忍者伝説が正しい》ことを実証した。

読んでいて、顔がほころぶ。とっても楽しくなる。愉快になる。二年生としては《あっぱれ》である。そういう自由研究である。